

國學院大學學術情報リポジトリ

障害児入所施設で働く保育士の意識

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 廣井, 雄一 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00001315

[研究ノート]

障害児入所施設で働く保育士の意識

廣井 雄一

【要旨】

本稿では、保育士の多くが勤務する保育所と対照的な児童福祉施設として、医療型障害児入所施設（旧重症心身障害児施設）を対象として、そこで働く保育士の意識について明らかにすることを目的として、3施設、3名の保育士にインタビューを行った。その結果他職種と同様の業務を行い、医療や介護に関する知識や具体的ケア技術が求められていることから、「保育士」としてということではなく、福祉施設で働く「ケアワーカー」としての意識が強いことが示唆された。また、子どもを援助する際に重要とされる「利用者理解」については同様に意識されているが、保育所のように児童の「今」とこれからの「将来」を見据えた援助が中心となるのに対し、利用者の今までの人生（「過去」）を受け止めて援助につなげようと意識しているということが特徴であることが分かった。

【キーワード】

保育士 重症心身障害児者 ケアワーク 意識

1. はじめに

近年、日本における子育て家庭を取り巻く環境の変化に伴い、保育所の業務は多様化し、複雑化してきた。それを受け、保育所保育指針の改定が行われた。保育所保育指針において、それぞれの保育士が専門性を発揮することや、保育所には職員の資質向上を図るよう努めるよう強調された。

一方で、保育士の資格のあり方についても検討が行われている。圓入氏ら（2007）は保育士資格を「保育所保育士」、「施設保育士」に分離することを仮定し、保育所以外の児童福祉施設の職員にアンケート調査を行った。その結果、約64%が「施設保育士」という言葉に肯定的な回答であると報告した。資格を領域別にすることに関しては、大嶋氏ら（2008）が現場の保育士へのアンケート調査から領域別資格の是否や保育士の養成年限、資格のステップアップの仕組みについての意識調査を行っている。また、同氏ら（2009）は4年制の養成課程案及び、いくつかの実習形態として、①インターンシップの導入、②長期実習の導入、③専門施設での実習等の提案を行っている。保育士養成課程等検討会（2010）中間まとめでも「4年制課程や大学院での学びなど専門性の更なる向上を視野に入れた養成年限や国家試験の実施の要否等について検討することが必要である」と保育士の養成について見直しの必要性が言及された。

また、新たな保育制度への移行に伴い、幼保連携型認定こども園で働く保育教諭には保育士資格と幼稚園教諭の併有が求められている。そのため、保育所または幼稚園における勤務経験を評価することにより、もう一方の免許・資格取得に必要な単位数等を軽減する特例を設け、免許・資格の併有を促進する特例制度が始まっている。幼稚園教諭免許保持者が、保育士資格を取得する場合、3年以上かつ4320時間以上の実務経験がある者は認定課程において8単位取得することによって、資格を取得することができる特例制度である。

本来、保育士が対象とするのは児童福祉法に示されているように、児童（0～18歳）とその保護者である。一時的な特例制度とは言え、この特例措置は、柏女氏が指摘するように、ますます「就学前集団保育」に特化していく流れとなる危険性があると言えないだろうか。

このように保育士の専門性の向上のため、養成課程についての検討はさまざまな立場で行われている。しかし、児童福祉施設で働く保育士を対象とした研究（白鳥ら2012、大森ら2015、小川2015等）は、種別ごとに行われているため、偏りがあるのが現状である。

このことを踏まえ、本研究ノートでは、児童福祉施設で働く保育士にインタビュー調査を行い、児童福祉施設の保育士の意識について検討したい。今回は児童福祉施設のうち、障害児入所施設（旧重症心身障害児施設）を対象とすることとする。

2. 方法

（1）研究対象

研究対象者は東京都および神奈川県内にある医療型障害児入所施設（旧重症心身障害児施設）で働く保育士資格を有している職員、3施設、3名とした。対象者の属性は以下のとおりである（表1）。

表1. 対象者の属性

	性別	年齢	卒業からの経過	勤務年数
A	男性	20歳代	卒業→重心施設→重心通所施設	入所3年 重心施設1年
B	男性	30歳代	卒業→重心施設	入所5年
C	女性	50歳代	卒業→児童養護施設→重心施設	児童養護施設11年6月 重心施設22年

〔「重心」とは重症心身障害児者の略〕

（2）調査方法

調査期間は平成24年5月4～10日に障害児入所施設（旧重症心身障害児施設）で働く保育士3名に対し、個別に1回ずつ半構造化インタビューを行った。1回の面接に要した時間は、各々約

40～70分であった。インタビュー内容は対象者の許可を得てICレコーダに録音し、逐語録に起こした。その後語りの内容を整理し、分析した。

質問内容としては、①保育士資格取得の動機、②重症心身障害児施設へ就職した経緯、③仕事内容、④就職してから獲得した知識や技術、⑤困難に感じていること、⑥やりがいに感じていることとした。

（3）倫理的配慮

対象者への倫理的配慮として、研究の目的・方法・プライバシー保護等について口頭と書面にて説明した。また録音データは、研究終了後に消去することを確約し、同意書への署名を依頼した。

3. 結果と考察

対象者の語りを通して、障害児入所施設で働く保育士の特徴の一端が見えてきた。

（1）他職種との業務内容の重なり

利用者が生活している病棟内には看護職と児童指導員や保育士等の生活支援員が利用者の生活を支えており、具体的な業務内容としては、社会福祉士や介護福祉士、保育士等の資格にかかわらず、同様の業務をおこなっていた（看護職は除く）。

表2. 業務分担に関する語り（抜粋）

- ・基本的に施設では保育士だからとか介護福祉士だから、社会福祉士だからという枠組みはされていない
- ・特に保育士としては分けられていない
- ・生活支援員での業務上の仕事の違いはない

（2）それぞれの特長を生かした支援に関する語り（抜粋）

保育士は一般にピアノや手遊び等が専門性と捉えられていると意識されているようである。しかし、実際に職員の業務分担は職員それぞれの特長を生かしておこなわれていると意識されていた。

表3. それぞれの特長を生かした支援に関する語り（抜粋）

- ・資格と言うより、いかに自分で利用者に対して支援を行えるか……それぞれが持っているもので利用者に対して支援を行っていく
- ・「保育士として」ということではない。ピアノとかは得意な人に求められる
- ・私はピアノが苦手……絵画製作が得意なので、イベントの時の室内装飾をやろうと意識している。得手不得手がある。……あと、自分としては季節ごとの部屋の装飾をやっている

（３）業務上必要とされる知識

業務上、必要とされる知識等は医療や介護に関する知識や具体的なケア技術であった。重症心身障害児を対象とする医療型障害児入所施設は病院としての設備が必要である。また、重度の身体障害を抱えている方が入所していることから、ケア技術の必要性はその施設の特徴とも言えよう。

表４．業務上必要とされる知識に関する語り（抜粋）

- ・ベテランの看護師さんが看護協会主催の研修会教えてくれる。今の職場でないとできなかった。専門用語がわからないこともあるが、面白い
- ・吸引やモニターの見方、薬の知識等膨らんで得られた。痰の吸引。専門的な知識は重心で働いて得られた。ナースが近いので気軽に聞くことができた
- ・ケアの時間では排痰の時間がかかる
- ・リハビリの時間が取れない。訓練士さんから教わりたい。

（４）今の姿を意識した「利用者理解」

援助の際の意識について、「利用者理解」に向けたそれぞれの意識が語られた。保育所保育指針では、保育所の特性として、「保育所は、その目的を達成するために、保育に関する専門性を有する職員が、家庭との緊密な連携の下に、子どもの状況や発達過程を踏まえ、保育所における環境を通して、養護及び教育を一体的に行うこと」としているように、保育士が援助する際にまずは「子どもの状況や発達過程を踏まえ」ること、つまり、「子ども理解」が重要であると言える。

保育所で働く保育士と同様に施設で働く保育士にとっても利用者理解が重要であることがうかがえた。つまり、保育士にとって、利用者理解の重要性については、保育所、児童福祉施設のいずれでも共通していると言えよう。

表５．今の姿を意識した「利用者理解」に関する語り（抜粋）

- ・介護職は手助けをしている。自分はできることを待ってあげたり、その人の強みを受け入れて、考えながら利用者に関わっていくこと
- ・個別支援計画に、根拠がないことが多い。……何回もやり取りしながら根拠を求めていく。……YESなのか？ NOだったら全く逆の支援……利用者にとっての不利益となってしまう。声＝返事ではない。前後の様子や緊張ぐあい。毎回同じと決めつけてはいけない
- ・情緒面を考える能力に長けるべき職業。介護士はそこまで強くない。行動に至った経緯を考える選択肢が多い気がする
- ・ずっと目で追う姿を見れたらうれしい。そういうものが作れたらうれしい。それが利用者の楽しいにつながればもっと嬉しい

- ・ 利用者の主体性を増すための活動が何なのか、利用者の主体性を増すためより活動の大部分をその人が占められることが出来れば……
- ・ 待つっていうか、相手のペースを見ていくっていうことが必要
- ・ 何かするアクションをとるにしても時間がかかるので、重心の場合は待つ
- ・ 一見、表情がくみ取りにくい場合でも、長くかかわっていくことで、ちょっとした変化がその人の快不快なんだなっていうのが読めるようになる

（5）今までの利用者の人生を受け止めるようとする「利用者理解」

保育士として援助を考える際に利用者理解が重要であるが、保育所と同様に今の子どもの状況や発達過程を理解することと共に、3人の語りからは、利用者の今までの人生を受け止めようとする意識がうかがえた。今回、調査対象とした医療型障害児入所施設では実際には成人の利用者が入所している。児童を対象とした援助とは異なる成人への援助の特徴とも考えられる。

表6. 今までの利用者の人生を受け止めるようとする「利用者理解」に関する語り（抜粋）

- ・ 親が情報源になる。幼いときどんなことをして遊んでいたか。どんなことが好きなのか。プロフィール帳……日常の支援では必要となってくる。幼少期からの経験、連絡帳などで、最低限生きていく情報、生活の質につなげていけるような情報の収集……
- ・ 利用者はいろいろな経験をしてきている大人である。彼らの人生の中で、今までの過程の中で築かれたことやその人の思いがある。無からではない。自分たちが入ることによってぶち壊したらいけない
- ・ すべての事を知るためには、そこにいる利用者だけと向き合っていけばよいわけではなく、その人がどんな生活を送ってきたのか、どんな家庭で育ってきたのか、どんな障害で特性があるのか等、色々なことを考えながら、その人と向き合っていって……
- ・ 紙媒体のポロポロの記録だったけれど、昔のこの人はどうだったのかという好奇心。……資料ある分は見ようと思っている。……関わりのヒントになるし、面白いよね。
- ・ 私たちと同じ大人として要望がある
- ・ 同じ世代の人間として共感して話が聞けるということ。

4. 終わりに

3人の語りから、「利用者理解を基盤とした援助」は、保育所で働く保育士と共通していることがわかった。一方で、社会福祉士や介護福祉士や生活援助員といった他職種の職員と同様の業務をおこなっており、そこでは介護や看護についてのケア技術も求められている。この点については、施設で働く保育士の業務の特徴であろう。3人の語りから、「保育士」としてではなく、「ケアワーカー」としての意識が強くうかがえるのは、業務における上記の特徴が関連していることが示唆される。また、保育士は本来、児童を援助の対象としており、「今」と自立に向けての「将

来」を見据えた援助を行っていると言える。一方、今回の調査対象者の語りからは、利用者を対等な一人の大人として受け止め、それまでの生きてきた人生、つまり「過去」の経験を尊重しようと工夫している様子がうかがえた。それは、入所者のほとんどが成人している医療型障害児入所施設における特徴と考えられる。

5. 今後の課題

本稿では、医療型障害児入所施設で働く保育士が行っている業務の特徴の一部が明らかになった。しかし、それらが保育士の専門性とどのように関わっているのかについて考察することはできなかった。また、対象者が医療型障害児入所施設に働く保育士3名と少ないため、さらに調査対象を広げ、検証する必要があると考える。

今回は、保育士の多くが勤務する保育所と対照的な児童福祉施設として、医療型障害児入所施設（旧重症心身障害児施設）を対象として、そこで働く保育士の意識について検討した。現在、児童福祉法では、11種類の児童福祉施設が規定されている。それぞれに支援の対象が異なり、そこで働く保育士に求められるものもさまざまであると思われる。そのため、それぞれの場で働く保育士が自らの役割や専門性をどのように捉えているのかについて検討する必要がある。

今後の課題として以下の点について考えていきたい。1点目は、その他の児童福祉施設で働く保育士についても調査を行い、保育士の専門性について検討することである。求められる業務により、それぞれの施設で働く保育士の専門性がどのように形成されていくのか、そして、他職種と協働しながら保育士としてどのように成長していくのかについても検討していきたい。

2点目としては、保育所と違い他の児童福祉施設では、子どもを他職種とチームで支援しているため、そこで期待されている役割がそれぞれに異なる。同僚の他の専門職を対象としたインタビュー調査により、それぞれの職種における役割や専門性が検討されている（安田ら2004、岩満ら2009、山北ら2012、宮崎2012等）。このような視点から、他職種からは「保育士」の専門性がどのように意識されているのかを調査することによって、「保育士」の専門性を検討していきたい。

〔付記〕

本研究を進めるにあたり、インタビューに協力してくださった保育士の皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

なお、本論文は日本保育学会第68回大会研究報告において使用したデータの一部を使用している。

〔参考文献〕

- 圓入智仁（2007）施設保育士養成カリキュラム開発に関する研究 平成18年度総括研究報告書、厚生労働科学研究費補助金（政策科学推進研究事業）
- 保育士養成課程等検討会（2010）、保育士養成課程等の改正について（中間まとめ）
- 岩満優美・平井啓・大庭章・塩崎麻里子・浅井真理子・尾形明子・笹原朋代・岡崎賀美・木澤義之（2009）緩和ケアチームが求める心理士の役割に関する研究－フォーカスグループインタビューを用いて－、Palliative Care Research Vol.4 No.2、pp.228-234
- 柏女霊峰（2009）、保育の質向上について－保育士資格と養成に限定して－、第5回社会保障審議少子化対策特別部会第一専門委員の提出資料
- 宮崎豊（2012）病児・病後児保育における保育士の専門性に関する研究（1）、玉川大学教育学部紀要、pp.83-101
- 小川恭子（2015）児童養護施設保育士に求められるソーシャルワーク機能－日常生活支援を通して－、藤女子大学人間生活学部紀要 52、pp.91-99
- 大森弘子・太田仁（2015）社会的養護を果たす保育士の役割の認知と効力不安について、佛教大学社会福祉学部論集 第11号、pp.1-10
- 白取真実・菅野和恵（2012）障害児通園施設保育士のストレス構造に関する研究、保育学研究 第50巻第1号、pp.20-28
- 大嶋恭二他（2008）保育士養成に関する研究、保育サービスの質に関する調査研究 平成18年度総括研究報告書、厚生労働科学研究費補助金（政策科学推進研究事業）
- 大嶋恭二他（2009）保育サービスの質に関する研究 平成20年度 総括研究報告書、厚生労働科学研究費補助金（政策科学推進研究事業）
- 坪井裕子・三後美紀（2011）児童福祉施設における子どもへの対応に関する若手職員へのインタビューの分析、人間と環境 2、pp.45-59
- 山北奈央子・浅野みどり（2012）看護師と医療保育士の子どもを尊重した協働における認識－医療保育士の専門性に焦点をあてて－、日本小児看護学会誌 Vol.21 No.1、pp.1-8
- 安田真美・山村江美子・小林朋美・寺嶋洋恵・矢部弘子・板倉勲子（2004）看護・介護の専門性と協働に関する研究－施設に従事する看護師と介護福祉士の面接調査より－、聖隷クリスティー大学看護学部紀要 12、pp.89-97

（ひろいゆういち 國學院大學人間開発学部子ども支援学科助教）